

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200912		
法人名	社会福祉法人 平成記念会		
事業所名	グループホーム本郷		
所在地	山口県岩国市本郷町本郷2086番地		
自己評価作成日	平成25年11月27日	評価結果市町受理日	平成26年5月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

居室から外の景色が見えて陽が差し込みやすい建物の為、明るいお部屋で過ごすことができます。田舎のどかな自然を満喫した生活を送ることができます。毎日の食事を献立活用して職員が調理している。
薬局の薬剤師と連携している為、内服薬全般に関する相談を気軽に受けることができます。
必要な方に対し、手作りではあるが足で踏んだり身体が接触すればナースコール機能が作動する物を準備している為、骨折等で安静した生活が求められる方、立位・歩行が不安定ながらもナースコールが理解できない方に対し、ベッドからの転倒・転落予防に取り組むことができます。
併設施設(特別養護老人ホーム)の管理栄養士と栄養・摂食・治療食等の相談を必要時に受けることができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の山代夜市や盆踊り、夏祭り、神楽などの夜間の行事に利用者が出かけられるように、職員の勤務を調整をされ、利用者の楽しみの支援につなげておられます。三食とも事業所でちょうりしておられ、法人の管理栄養士によるバランスの取れた献立で、利用者は下ごしらえ、調理、下膳、台拭きなど職員と一緒にされ、同じテーブルを囲んで会話を弾ませながら、食事を楽しんでおられます。行事担当職員による旬の食材を使つてのすき焼き大会、ソーメン流し、ノンアルコール飲料によるビアガーデン、手巻き寿しパーティ、外食など工夫され、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。自治会長、民生委員、地区消防団など運営推進会議のメンバーが緊急連絡網に加入され、避難訓練の実施しておられる他、災害時は併設施設と共に、事業所も地域の避難場所となるなど、災害時の地域との協力体制を築いておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をユニットごとに掲示するとともに、職場会議または勉強会等の職員が話し合う場において確認する機会を設けている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念づくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は年度初めの勉強会や職員会議で話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や小中学校・保育園の運動会、近隣にある福祉施設の催しに参加させてもらっている。 保育園児を招いたり、獅子舞や神輿が当事業所に入られ利用者と直接触れることがある。 お買い物や散歩行為で住民の方と気軽に接している。	保育園や小中学校の運動会、地域の夏祭り、地域恒例の年2回のえびすこう祭りに参加している他、獅子舞や神楽の来訪、保育園児を招いての遊戯、近隣の福祉施設の盆踊りや運動会に参加するなど交流している。散歩時、郵便局や買い物に出かけた時に地域の人と会話するなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて出席される地域関係者または家族に対し、様々な場面で起こる認知症行動への対応について口頭で説明している。 施設外での地域活動は実施していない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価に関しては常勤職員が取り組むことで、改めた共通理解がもてている。外部評価の報告を法人幹部に挙げているが、報告内容における指示等はない。 職員からの要望やできることは話し合いの場を設け、検討。改善方向の取り組みに努めている。	管理者、職員は評価の意義を理解し、自己評価は常勤職員で取り組み、話し合い、管理者がまとめている。前回の外部評価結果から、アセスメントシートの検討、事故対策、内部研修の見直し、鍵をかけない工夫、家族からの意見の反映などを目標達成計画に挙げて、改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いを行った内容を基に、家族・地域関係者等の意見も踏まえつつ、できることから施設改善ならびに介護サービスの向上に向けて取り組んでいる。 外部評価の報告も説明している。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や行事、事故、外部評価への取り組み等について報告をして意見交換している。駐在所職員から高齢者の交通事故等についての報告がある他、事業所の災害時の備蓄や体験学習の取り組みについて話し合い、サービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室状況の報告は毎月実施。非常事態が起こった場合は密に連携をとっているが、普段は義務付けられている報告書等の提出をする程度。 運営推進会議では包括職員だけでなく、支所職員にも出席を依頼している。	市担当課とは定期的に出向いたり、電話で相談して助言を得たり、情報交換するなど協力関係を築いている。地域包括支援センターや支所職員とは運営推進会議時に事業所の取り組み等について話し合っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関ならびに扉の一部には電子ロック機能が装備。屋外へつながる扉も鍵が装備。 外へ洗濯物を干す時や1階では屋外散歩を行っている時間帯に数分間でも玄関扉の全開放を位置づけている。 拘束必要な方に対してはマニュアルに副って家族・法人同意を得たケアに取り組んでいる。	身体拘束について内部研修で学び、職員は理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、気づいたときに職員同士で注意し合っている。建物の構造上、玄関は電子ロックになっているが、洗濯物を干す時間や散歩の時間など、できるだけ開錠に努めている。	・鍵をかけない工夫の継続
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会のテーマとして取り上げ実践している。 痣や傷等、排泄・入浴時等に確認したり、職員からの報告を受けて原因追究している。 不明な状況が確認できる場合は当職員から事情を伺い、始末書の記入、上司への報告をしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去、運営推進会議を通じて地域包括支援センターに依頼し、制度内容に関する説明を受けたことがある。また、勉強会のテーマで挙げ、資料を通じて職員間で話し合いをしたことがある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に限らず、申し込みの段階でも利用者または家族から伺える範囲内での説明を交わしている。改定の際には説明を文書とともに再契約を交わしている。 施設側の説明をするだけでなく、申し込み者の現状や希望等を受容している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが活用できていない。苦情要領を各ユニットに掲示し、電話、面会時等で苦情の内容を受けた際は報告書に記入し、全職員に周知、改善策の検討を実施している。 法人幹部に毎週苦情有無の報告を行っている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め家族に周知している。電話や面会時、利用料持参時などで家族から意見や要望を聞いて、苦情を受け付けた場合は苦情報告書に記録し検討している。接遇について意見があり、全職員に周知し、話し合い、改善に取り組んでいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務時間内外に関係なく、職員から伺った内容は可能な範囲内、前向きに検討している。 個人的に伺った内容も職場会議にまわして業務への反映につなげている。法人幹部、代表者に直接反映している状況には至っていない。	管理者は職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている処遇やユニホームの見直しの検討、利用者の受診支援などについて職員から意見があり、法人幹部に報告して、反映につなげている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者として休憩時間の確保、残業発生時には快く手続きを行っている。また、職員の疑問や不満を求めた就業改善に可能な範囲内で取り組んでいる。内容に応じて、法人幹部、代表者に書面を通じて伺い報告を挙げている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加は必要性を考慮して選別し、勤務状況と調整したうえで検討している。しかし、職員数の問題で安易に研修参加が行えていない。定期的に法人内での研修会が位置づけられ、毎回参加している。代表者の職員個別的把握に関しては不明である。	外部研修の情報を伝え、必要に応じて参加の機会を提供しているが、受講していない。定期的に法人研修を実施しているが、参加には至っていない。内部研修は年間計画を作成し、月1回の職員会議で、法令順守と職員倫理、感染症対策、接遇について、防災教育等について実施している。市地域密着型連絡協議会の勉強会や情報交換会に参加している。	・研修の機会の確保
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市の地域密着型連絡協議会に加入し、年間を通じて行われる勉強会や情報交換会に参加することで、他事業者との交流や困っていること等の話し合いがもてている。 必要なことは当施設への反映につなげている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約締結時に確認したり、利用開始時には特に本人の訴えや不満等、耳を傾けた対応に取り組んでいる。他利用者にも可能な方には協力していただき、緊張や不安を和らげてもらうように努めている。必要時は家族の協力も得るよう事前に依頼している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の不安や苦情、要望等を率直に聞き入れ、利用者本人との絆も断たれないよう、利用後の協力体制についても具体的に説明し、双方に了承を得ている。些細な事項であっても相談、連絡して欲しい旨を伝えている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体レベルや生活状況の情報収集から利用への必要性がないと考慮できれば、その旨を本人・家族に説明し、他のサービス案内をしつつ、現時点での担当介護支援専門員との話し合いを勧める説明を交わしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物や調理、おぼん拭き、掃除や洗濯物干したたみ等の生活行為を可能な方には生活習慣として提供している。職員もその場面を会話や見守り、共にしながらの支援を行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から家族とも連絡をとり合い、身体や生活状況の様子を伝えている。相談、問題事項がある場合は話し合いの機会を設け、最良の支援や協力有無に関して一緒に考えていただける取り組みを行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、手紙のやりとりや会いたい人、行きたい場所や生活していた場所等、本人の希望を受ければ家族と相談しつつ、可能な範囲内で職員も協力して希望に副えるように取り組んでいる。	友人や知人の来訪、家族の協力を得ての外泊、外出、外食、文化サークルへの参加、馴染みの理美容院の利用など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行動・性格等を理解し、利用者同士で良き関係が築けるように橋渡しの支援をしている。利用者同士で口論やトラブルを引き起こすこともあるが、仲裁に関わり、その後の良い関係にもっていけるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院から退居と至った場合でも、家族から相談を受ければ必要に応じて関係機関に問い合わせをする等の支援に努めている。過去、在宅に戻られた方に対し、介護支援専門員を通じて連絡調整を交わしたことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始日前後における生活行動の情報収集や会話、行動等から意向の把握に努めている。困難な方に関しても、表情等から快・不快なことを掴み、本人本位の支援ができるように計画作成担当者を中心に努めている。	センター方式の活用やアセスメントの他、電子カルテに日々の利用者の生活や行動を記録し、職員間で共有して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は担当職員が本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から確認したり、さりげなくそれまでの暮らし方に関して何う等、個々の把握に努めている。退院後の入居となられる方には病院でのカンファレンスに出席し、医療面での留意点や介護面での継続支援が行えるように確認している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過、管理日誌での記録、申し送りでの把握に努め、職員全員が共通認識もてるように留意している。また、介護計画の見直し毎にアセスメントし、現状や意向を把握するように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を反映させ、カンファレンスで挙がった意見も検討しつつ、介護計画に生かすように努めている。栄養面は併設施設の管理栄養士、医療分野は看護師・薬剤師の協力支援も活用した作成を手掛けている。	本人や家族の意見、利用者を担当する職員の意見や管理栄養士、看護師、薬剤師の意見を参考に、カンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し見直している他、状況に応じて見直している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテの使用で、両ユニットの利用者の日々の状態記録を全職員が随時確認できるようになっている。介護計画に対する実施内容も結果を記入することで、定期的な介護計画の見直しに反映している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、受診や買い物等の引率に努めている。家族の協力を要する場合は、丁寧な言い方での協力支援を依頼している。 落ち着いた利用者に対しては別ユニットの協力を依頼している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察署には利用者の顔写真や情報を提供し、運営推進会議への出席で顔見知りな関係が多少でももっている。家族に限らず、利用前に住居されていた近隣者や友人等の面会もあり、心の支えにつながっている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を勧めるのではなく、今迄のかかりつけ医を継続している方もいる。また、必要に応じて主治医以外の専門医への受診支援を家族と連携して行っている。 相談事があれば家族に依頼するだけでなく、直接医師との連携を交わしている。	協力医療機関の他、本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関の月2回の往診があり、かかりつけ医や他科受診は家族の協力を得て支援している。受診時には情報を提供している他、受診時以外でも情報をファックスで医師に提供しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に勤務する看護師はいないが、併設施設の看護師との協力体制をとっている為、相談や治療処置が受けられるようになっている。 協力医療機関は遠方距離にあるが、外来看護師と気軽に相談、指示を受けることができる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際しては、介護・看護情報を提供するだけでなく、病院でのカンファレンスに出向いたり、スムーズな受け入れの為の情報提供を医療連携室と関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応は行っていない。重度化された方の家族とは早い段階で特に密をとり、家族の不安や疑問等について確認し、協力医療機関や他介護施設との連携も含め、安心感を抱いていただけるように支援している。	重度化した場合の指針について、事業所でできる対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や医師、職員等関係者と話し合い、医療機関や移設も含めて方針を共有して、支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	勉強会のテーマとして挙げ、確認する機会を設けている。事故報告書記載のうえ、予防ならびに今後の対応策の話し合いを交わしている。しかし、事故検討委員の設置には至っておらず、設置の必要が求められる。急変時の対応における資料を各ユニットごと掲示している。	ヒヤリハット報告書、事故報告書に記録し、その都度対応策について話し合い、職員会議で検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署主催の救急救命講習に参加し、急変時の対応における資料を各ユニットに掲示しているが、全職員が急変時の対応や初期対応の定期的訓練を実施するまでには至っていない。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練の位置付け以外に運営推進会議を通じて、地域関係者との話し合いや連携を図るとともに、避難場所に関する確認を交わしている。 消防設備会社より消防機器の使用・復旧方法の確認を受け、マニュアルを各ユニットごと掲示している。	年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施し、1回は地域の運営推進会議メンバーと一緒に、避難訓練を実施している。緊急連絡網に自治会長、民生委員、地区消防団が加入している。消防設備会社の協力を得て消防機器の使用、復旧方法について年1回、勉強会を行っている。災害時は事業所と併設施設が地域の避難場所になっており、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自室扉に中を伺う小窓がある為、個々の希望により保護を位置づけている。 接遇に関して職場会議や勉強会のテーマに挙げ、普段の対応における意識・認識度を確認している。管理者を中心に言葉や記録における注意し合う体制に留意している。	接遇や職員の倫理について勉強会を行い、人格の尊重やプライバシーの確保について職員は理解して、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。管理者は業務の中で不適切な言葉かけに気づいた時はその都度注意し、連絡ノートに記録し、共有を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々への会話、創作活動や生活行為を行う中で自己発言する場面を提供したり、希望・意見等を言える雰囲気が出せるような支援づくりを行っている。意思疎通が難しい方には感情表現を見い出す対応を手掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れが必要最低限しか決まっておらず、可能な範囲内で利用者のペースでの生活支援を提供している。 しかし、入浴時間帯に関しては施設側で調整した対応になっている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時はお出かけ着の格好を準備したり、個々に応じてお化粧の支援をしている。夏祭りの時は浴衣持参を家族に依頼している。軽度認知の方は入浴時等、自分で決めた服を用意してもらい着ていただいている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日3食、職員が目の前で調理し、調理時における匂いを感じながら生活していただいている。 ①可能な方には食材を切る、フライパンで炒めるといった行為を手伝ってもらっている。 ②おぼん拭き、テーブル拭き程度のお手伝いしてもらっている。	三食とも法人の栄養士によるバランスの取れた献立で事業所で調理している。利用者は下ごしらえ、味付け、食器洗い、下膳、テーブル拭きなど出来ることを職員と一緒にしている。 外食、誕生日のケーキづくりの他、行事担当職員ががすき焼き大会や七夕会（ソーメン流し、おにぎり）、手巻きずしづくり、ビアガーデン（ノンアルコール）など企画し、旬の食材など取り入れて、利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事を楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肥満傾向の方には低カロリー食、低体重の方には付加食の提供を医師、薬剤師、管理栄養士等に相談している。嚥下・咀嚼動作が困難な方にはペースト食を提供し、必要な方にはトロミ使用での食事提供を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できる方には口腔ケアを促し、困難な方には介助でガーゼや舌ブラシを使用した口腔ケアを実施している。 義歯使用者は夜間、義歯洗浄剤を浸しての保管管理を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を活用して排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄行為に向けた取り組みを位置づけている。本人からの訴え時に限らず、職員側からトイレでの排泄を促す声掛け、トイレ誘導を手掛けている。	利用者の半数近くは自立しており、見守りをしている。業務日誌の排泄記録を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤服用者もおられるが、偏食者の方には野菜を食べていただく声掛けや水分摂取に留意、個々に合わせて運動の位置づけを交わしている。 また、便秘しがちな方には看護師、薬剤師とも相談し、適切な支援提供を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に副った入浴日・入浴時間の提供は実施できていない。職員側の都合での対応となっている。 基本、利用者半数名を1日ごとマンツーマンでの個別入浴支援を行っている。	1日おきに14時から16時30分までの間入浴できるが、希望があれば毎日でも入浴を楽しむことができる支援をしている。入浴したくない場合には職員を交代したり、時間をずらしたり、言葉かけの工夫等でゆっくり入浴のできる支援をしている。シャワー浴や清拭、足浴など対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臥床の訴えができない方には、状態を見ながら特に昼食後の昼寝を促している。車椅子生活の方にも長時間離床とならないように定期的に臥床行為を促している。必要な方に対し、起き上がり時が分かるようにセンサーマットを設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書ならびに薬の手帳を個々に分け、薬剤師による服薬指導報告も電子カルテ、ファイルと別々に位置づけ、安易に閲覧できるようにしている。説明書は家族にも送付し、どのような薬を服薬しているのか分かるようになっている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業やお花の植え付け、カラオケ、DVD視聴等、個々の好まれる活動を設けたり、作品作りを一緒に手掛け、壁に掲示することで、利用者自身の喜びにつながっている。写真の掲示は特に家族や面会者に対し安心感を伝えられている。	貼り絵、ぬり絵、折り紙、書き初め、ボール遊び、風船バレー、カラオケ、言葉遊び、色当てゲーム、計算ドリル、洗濯物干し、布団干し、テレビ視聴、自転車こぎ、水やり、花の手入れ、草取り、食事づくり、後片付けなど、張り合いや活躍できる場面づくり、楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴、屋外散歩を実施している。月担当者によるが、お出掛け行事も調整した位置づけを交わしている。個人的意向においては家族に連絡して外出依頼の協力を得たり、家族側の意向で外泊される方もおられている。	散歩、買い物、ドライブ(六日市、錦の道の駅、弥栄ダム、桜、蜂ヶ峰のバラなど)などに出かけている他、職員の勤務調整をして、山代夜市、盆踊り、夏祭り、神楽などの夜間外出にも出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お出掛け時や買い物時、可能な方には実際に財布をお渡しし、自分で考えて購入、支払いをしていただく支援を行っている。日々、お金の心配をされる方には金庫で預かっている旨を説明し、実際に本人に見せて確認してもらっている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたり電話をかける行為は自由にしてもらっている。葉書や切手が無い場合は散歩を通じて一緒に郵便局へ行き、購入している。郵便物が届けば直接本人に渡したり、理解できない方に対しては傍で朗読している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間や居室から外の景色が自由に見渡せ、山や田んぼの風景から季節感を感じることができている。実際にお手伝いで職員引率支援での屋外へ出る行為では肌で直接季節感を感じることに繋がっている。 ①水槽に金魚を飼い、家庭観を提供している。冬にはこたつを置く等して、季節を感じる工夫作りをしている。	共用空間や居室から外の景色が眺められ、四季の移り変わりを視覚で感じることができる。キッチンから調理の音や匂いがして生活感もあり、水槽に金魚を飼って利用者の癒しになっている。リビングはテレビ、ソファ、テーブル、椅子が配置しており、畳の間に炬燵を置くなど利用者の居場所となっている。温度や明るさ、音など生活環境に配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①個々に合わせたレイアウトを手掛け、可能な範囲内で自由に過ごしてもらっている。ソファ、畳の間、ホール席と自由に利用でき、人間関係等を配慮した席を設けている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用されていた馴染みの品や家具、布団等を持参してもらい、可能な範囲内で居心地易くした生活空間に留意している。居室配置の変更を求める場合は、本人、家族に充分説明し許可得たうえでの配慮を手掛けている。	使い慣れた物や好みのもの、家具、布団、位牌などを持ち込み、家族の写真や作品を飾って、利用者と職員のアイデアにより、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物構造に関しては職員からの不満も多い状況。建物内外部は変更できない為、利用者のできること、残存機能を活かせること等、残存機能を活かせる働きかけに努めている。 作業ができなくても簡単な手伝いごとを依頼し、皆様との一体感や存在意義を感じられるように配慮している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム本郷

作成日: 平成 26年 5月 19日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	急変時の対応や初期対応時の訓練に関して学習会や特定職員の研修機会を設けているが、全職員を対象とした定期的実践訓練を実施できていない	体験実習を取り入れる勉強会研修報告会の機会を現在よりも多く設ける	勉強会において体験実習を取り入れた内容を項目に応じて位置づける取り組みを行う 体験実習できる地域講習会にも現状通り出席できる機会を確保していく	6ヶ月
2	35	事故報告への記載だけではなく、事故内容における委員会をつくり、事故件数、原因分析等話し合いの場を設けることが求められる	事故対策検討会議をつくり、ユニット毎に担当責任者を決める。定期的会議を位置づける	会議内容や設置の位置づけをどうしていくか管理者を中心に検討する (法人内各施設の取組状況を確認)	6ヶ月
3	14	職員不足が大きく影響し、外部研修への受講参加が全くできていない	職員体制を安定させ研修機会の確保に努める	職員増員に向けた上司への訴えや人員確保に対する様々な機関への働きかけを行う	12ヶ月
4	7	電子ロックならびに扉等に鍵を設置している構造自体も拘束としてとられる為、ユニットの異なる状況に応じて玄関ドアや勝手口を開錠する取り組みを行っている 更なる鍵を掛けない工夫の向上がもとめられる	鍵を掛けない工夫のステップアップした取り組みを目指す	難しい事項ではあるが、職場会議、勉強会を通して、職員間で改めて理解を求める話し合いを交わしていく (現在の取組以外の位置づけを検討)	12ヶ月
5	11	ご家族宛への便りを毎月送付しているが、事業所に対する意見や満足度を伺う取り組みの実施が求められる	ご家族に対し、意見や満足度が記入できるようなアンケートを作成し送付を試みる	他事業所や施設の取り組み状況を確認し、家族宛へのアンケート作成を位置づける	9ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。